

## I 調査概要

---

1. 調査の概要
2. 結果の概要



# 1. 調査の概要

---

## (1) 調査の目的

沖縄観光に関する県民の意識やニーズ及び行政に対する要望等を把握して客観的かつ合理的な分析を行い、実効性の高い観光施策の企画・立案・評価及び沖縄観光ブランドの構築に資することを目的とする。

## (2) 調査項目

- ①観光客との接点 (Q1、F7)
- ②沖縄観光に対する意識 (Q2～Q4、Q6～Q7)
- ③観光客来訪による影響 (Q5、Q11)
- ④観光施策の重要度・達成度 (Q8)
- ⑤観光産業に対する意識 (Q12～Q14)
- ⑥観光税の導入に対する意識 (Q9～Q10)
- ⑦将来の沖縄観光のあり方や観光行政に関する意見 (Q15)
- ⑧回答者の年齢、性別、職業などの基本属性 (F1～F6)

## (3) 調査対象

- ・母集団：県内に居住する満15歳以上、満75歳未満の男女
- ・調査地点数：200地点
- ・標本数：2,000人\*
- ・抽出方法：層化二段無作為抽出法

\*調査にあたっては、沖縄県内の市町村を北部、中部、那覇市、南部、宮古、八重山の6地域に分類し、原則、2,000標本を人口により比例配分した。この場合、地域間の標本数の差が大きくなり、地域別の精度も異なってくるため、人口数の少ない宮古、八重山地域については、他の地域に比べ2倍の標本を割り当てるウェイト付きサンプリング及び集計を行った。

## (4) 調査方法

留置法（調査票の配布及び回収を調査員が直接個別訪問して行った。）

## (5) 調査期間

平成30年1月22日～3月8日

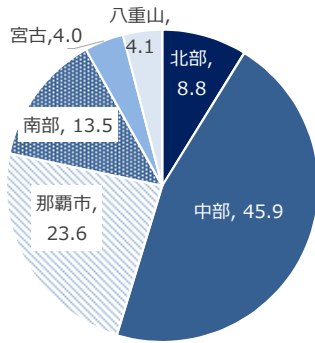
(6) 回収結果

有効回収数 1,500 人

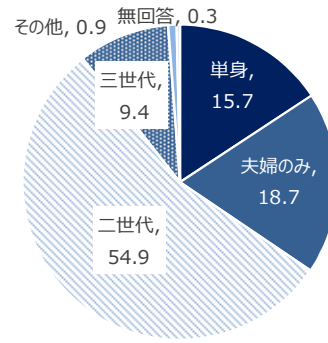
有効回収率 75.0%

(7) 調査対象者のプロフィール

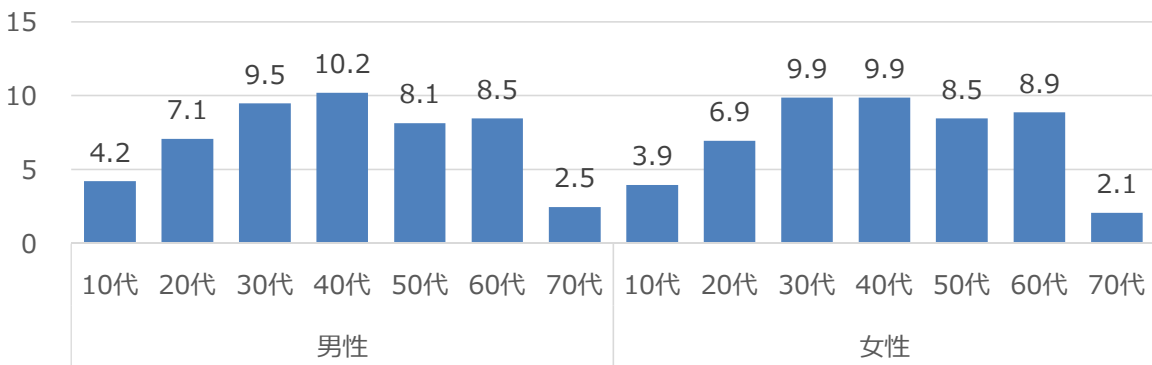
地域別 (%)



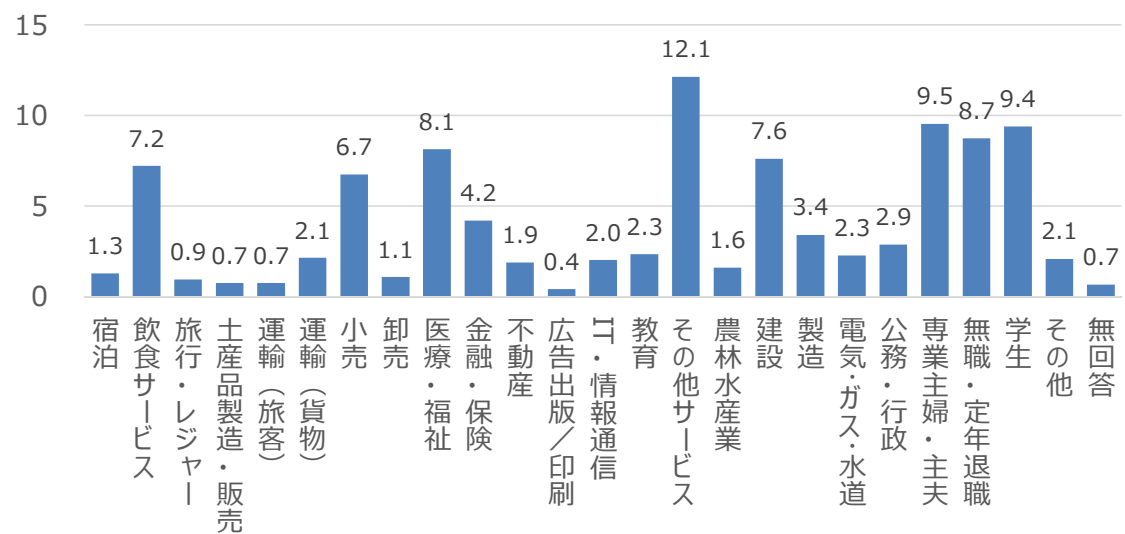
家族構成 (%)



性・年代別 (%)



職業別 (%)

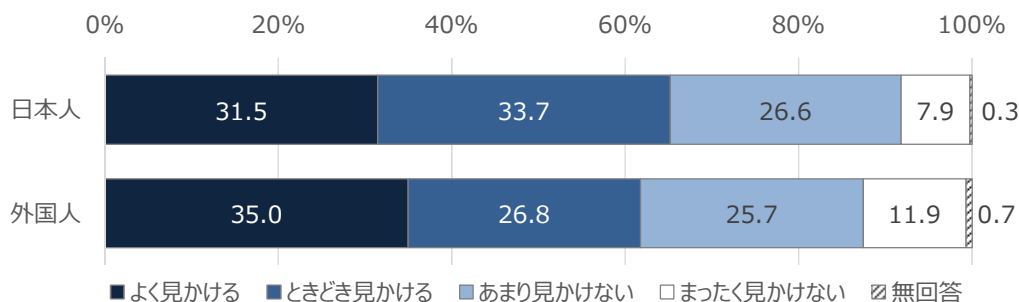


(注) 調査結果中の合計値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

## 2. 結果の概要

### 1. 観光客との接点

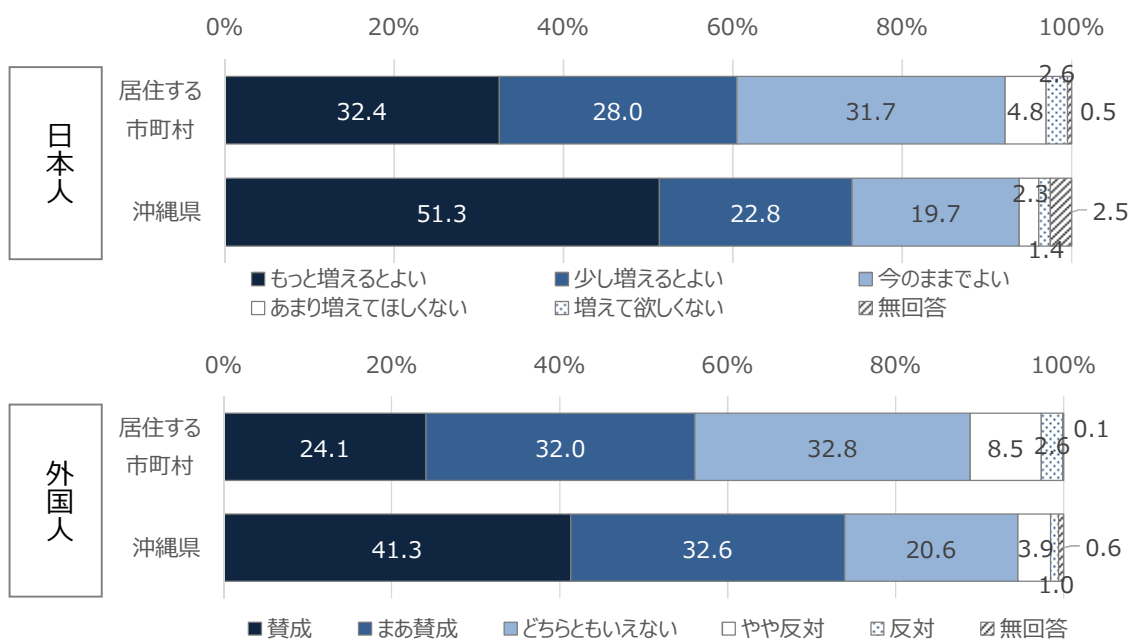
- ・観光客を「よく見かける」割合は、日本人 31.5%、外国人 35.0%とやや外国人が日本人を上回る。一方、「見かけない」割合も外国人が日本人を上回ることから、外国人観光客のほうが一定地域に集中しており、日本人観光客よりも地域分散が進んでいないと考えられる。
- ・観光客と接する機会は、「日常業務の一環で接している」が 14.5%、「日常生活におけるコミュニケーションで接している」が 24.2%、「接する機会はない」が 60.8%であった。



### 2. 沖縄観光に対する意識

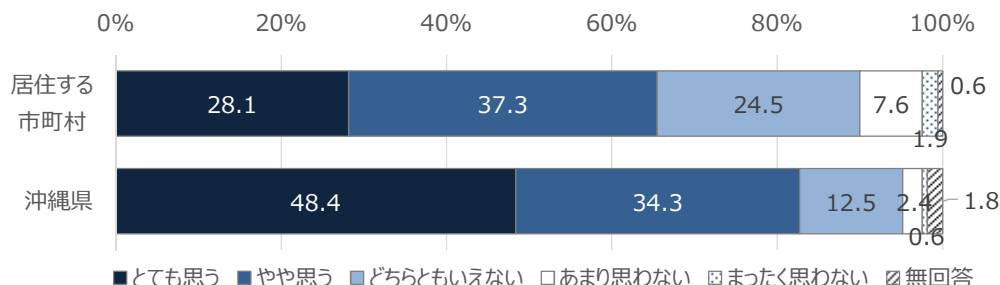
#### (1) 観光客の来訪に対する考え

- ・自分が居住する地域への日本人観光客の来訪に対しては「増えて欲しい層」が 60.5%を占め、「増えて欲しくない層」7.4%を大幅に上回った。一方、沖縄県全体としては日本人観光客が「もっと増えるとよい」が半数以上を占めており、沖縄県としては増えて欲しいが、居住する地域には今のままでよい、といったギャップがみられた。
- ・居住地域への外国人観光客の来訪についての賛否では「賛成派」56.1%、「反対派」11.0%であった。沖縄県全体としては「賛成派」が 73.9%を占めた。



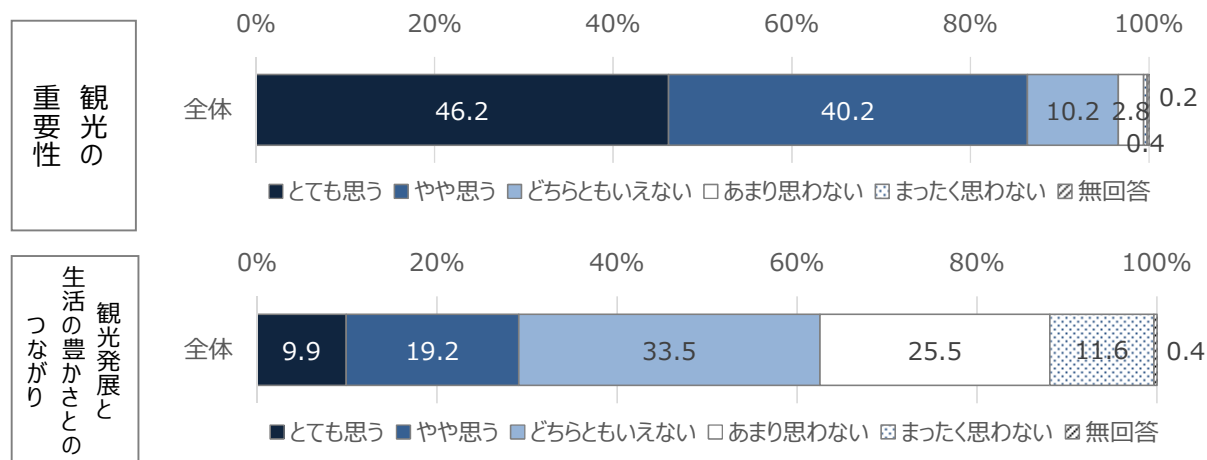
## (2) 観光発展への期待

- ・居住地の観光の発展を期待する人の割合は、「とても思う」が28.1%となり、「やや思う」と合わせた「期待する派」が65.5%を占め、「期待しない派」9.4%を大幅に上回った。沖縄県全体としては「期待する派」が82.7%を占めており、観光の発展への期待は大きい。



## (3) 沖縄の発展における観光の重要性と生活の豊かさとのつながり

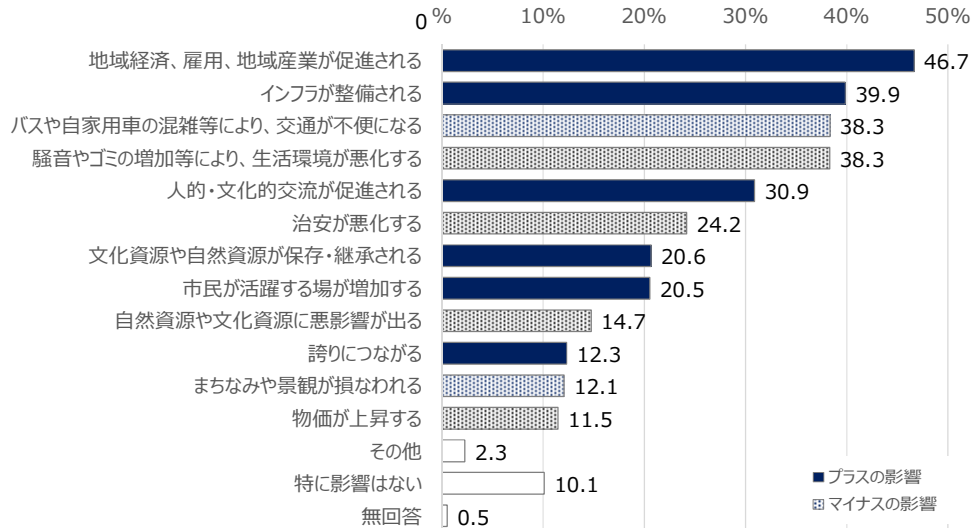
- ・沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしているか、と尋ねたところ、「とても思う」が46.2%と約半数を占めた。「やや思う」を加えると、86.4%の人が観光の重要性を評価しており、観光が担う役割について共通の認識が形成されている。
- ・その一方で、観光が発展すると自分の生活も豊かになると思うかについては、「とても思う」「やや思う」とあわせて29.1%に留まった。観光の果たす役割が多くの人に理解されている反面、生活の豊かさにはつながっていないと考える人が多い。



## 3. 観光客来訪による影響

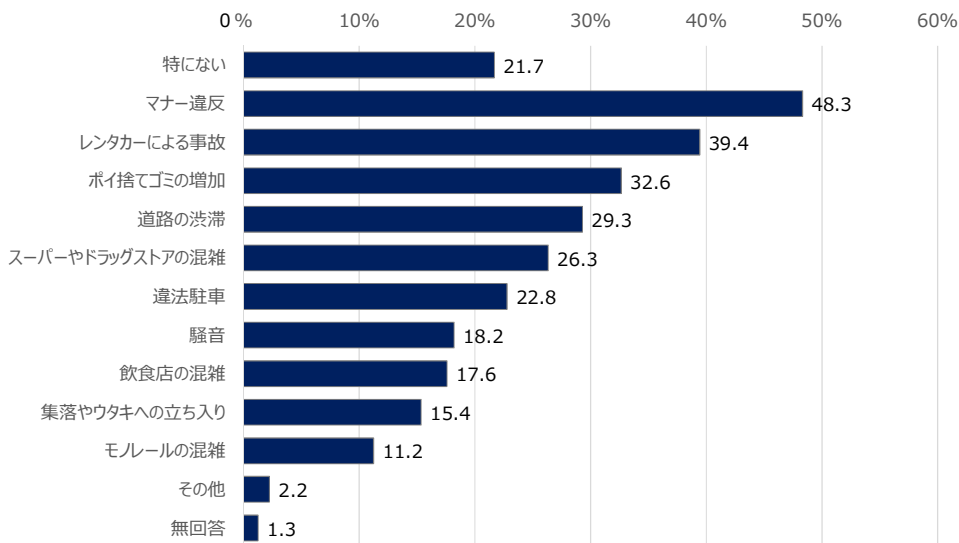
### (1) 観光客が訪れることによる影響

- ・観光客が訪れることによる影響としては、「地域経済・雇用・産業の促進」が46.7%ともっとも多い。次いで「インフラ整備」39.9%、「混雑等による交通の不便」38.3%、「生活環境の悪化」38.3%、「交流の促進」30.9%までが3割以上で続く。プラスの影響としては経済・インフラ面、マイナスの影響としては生活環境・交通面が多く挙げられた。



## (2) 観光客に関して困っていること

- 観光客に関して困っていることとしては、「マナー違反」が48.3%で最多となった。以下、「レンタカーによる事故」39.4%、「ポイ捨てゴミの増加」32.6%と続く。一方、「特にない」と回答した人は21.7%であった

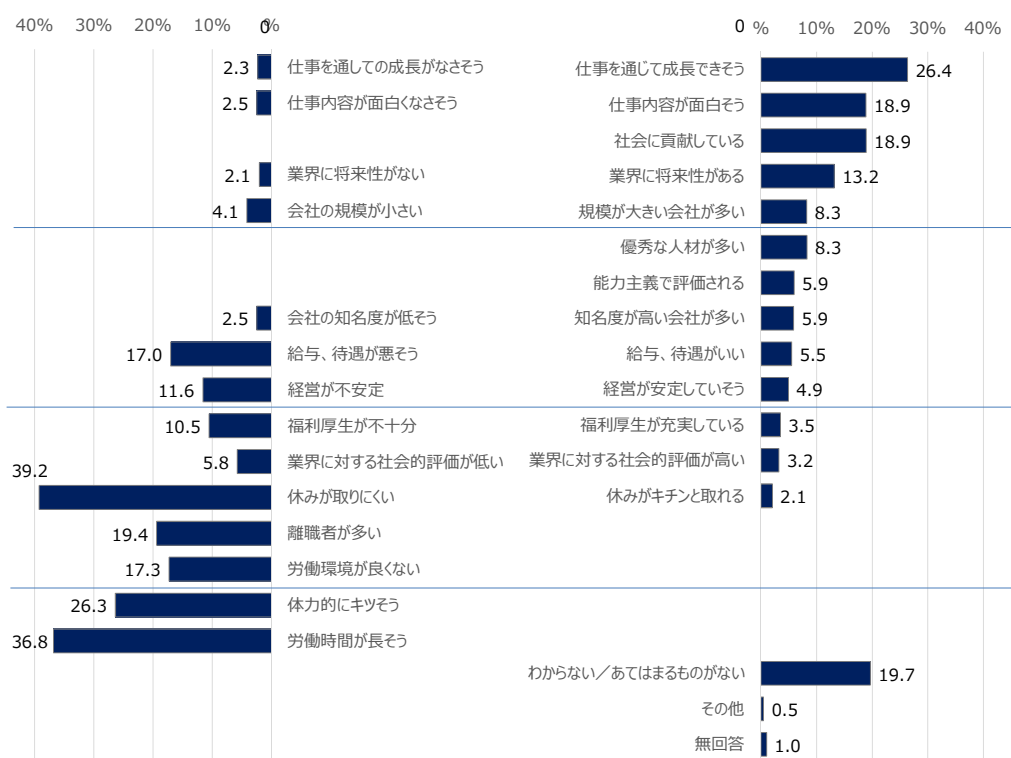


## 4. 観光施策の重要度・達成度

- 「各種キャンプ・大会の開催」「沖縄文化の保全・継承・活用」「空手の発信、愛好家の訪問」「交通利便性の向上」「多種多様な目的での訪問」「環境と共生した持続可能な観光」等は、県民にとって重要度は高く、達成率も高い項目であることから、現状の沖縄観光の強みとして、引き続き、維持・強化していくことが必要である。
- 一方、「交通事故等のトラブル防止対策」「円滑な移動」「誰もが快適に過ごせる環境整備」「多言語対応」「風評被害対策」等は、県民にとって重要度が高いにもかかわらず達成率が低位に留まることから、県民ニーズが高い施策であると考えられる。

## 5. 観光産業に対する意識

- ・未就業者に観光産業への就業意向について尋ねたところ、「働きたい」が3.4%、「やや働きたい」が13.0%と、あわせて16.4%に留まった。一方、未就業者の子どもがいる人に対し、観光産業への就業推奨意向について尋ねたところ、「働かせてみたい」が6.9%、「やや働かせてみたい」が17.7%と、あわせて24.6%となった。
- ・観光産業のイメージとしては、「休みが取りにくい」が39.2%で最多となった。以下、「労働時間が長そう」36.8%、「仕事を通じて成長できそう」26.4%、「体力的にキツそう」26.3%が続き、上位にはマイナスイメージが多い。仕事内容にはプラスのイメージを抱いているものの、勤務形態や待遇面への不安があらわれる結果となった。



## 6. 観光税の導入に対する意識

- ・観光税の導入については「賛成派（賛成+まあ賛成）」が51.8%を占め、「反対派（やや反対+反対）」14.5%を大幅に上回った。まだ導入が検討されていることでもあるため、「どちらともいえない」も33.0%を占めた。
- ・観光税の活用方法としては「道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備」が58.3%ともっとも多い。次いで「海などの自然環境の保全」48.8%、「案内表示や情報発信等における多言語対応の強化」40.6%と続く。

